



八角形鼓櫓・米倉・兵舎

古代山城 鞠智城展

きくちじょう

～大和朝廷の西の護り～

鞠智城は、東アジア情勢が緊迫した7世紀後半、約1300年前に大和朝廷が現在の熊本に築いた古代山城で、平成16年に国の史跡に指定されています。40年にわたる熊本県の発掘調査により、八角形建物跡をはじめとする建物や貯水池などの遺構、百済系銅造菩薩立像、木簡などの重要遺物が相次いで発掘されました。今回、大阪では初めての「鞠智城展」を開催し、百済系銅造菩薩立像（レプリカ）をはじめ、パネルの展示、ビデオ上映等により、古代山城の歴史や鞠智城の最新の調査成果をご紹介します。

入場無料

日時

平成25年 3/22(金) 午後1時～5時	平成25年 3/23(土) 午前9時半～午後5時	平成25年 3/24(日) 午前9時半～午後3時
------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------

場所

大阪歴史博物館 4階 第一研修室
(大阪市中央区大手前4丁目1-32)

主催

熊本県教育委員会

共催

熊本県文化財保護協会

アクセスマップ



鞠智城イメージキャラクター
ころうくん



鞠智城とは

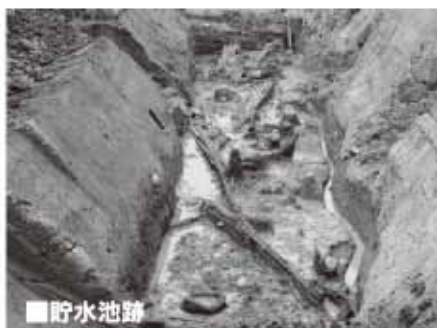
古代山城鞠智城は、熊本県北部の山鹿市・菊池市に位置し、周囲の長さ約3.5km、面積約55haの規模を持つ城です。

熊本県では40年以上にわたり発掘調査を行っており、八角形建物跡をはじめとする72棟の建物跡や貯水池跡、土塁跡など貴重な遺構が相次いで発掘されています。また、平成20年には、百済系銅造菩薩立像が出土するなど、遺跡の重要性が高まっています。

『続日本紀』に鞠智城の築城年の記載はありませんが、最近の調査研究により、大宰府防衛のため築城された大野城や基肄城(きいじょう)と同様、7世紀後半に、築城されたと推定されています。

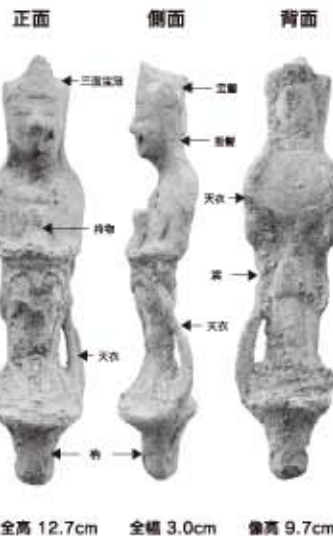


■八角形建物跡



■貯水池跡

くさろ けいどうそう せきつりほうそう
百済系銅造菩薩立像



全高 12.7cm 全幅 3.0cm 像高 9.7cm

鞠智城に関連する記録

660年	百済が滅亡する	
663年	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れる	『日本書紀』
664年	村原、香取、筑前などに烽火を置き、筑紫に大軍を築く。水城と名付ける	『日本書紀』
665年	百済の亡命高官懐礼・宿禰らを筑紫に遣わし、大野城、基肄城を築く	『日本書紀』
676年	新羅が朝鮮半島を統一する	
698年	大宰府に南じて、大野、基肄、鞠智の3つの城を修理させる	『續日本紀』
699年	三野、船橋の2つの城を修理する	『續日本紀』
858年	菊池城の兵隊の数がひとりでに増った(2月、6日) 不動堂十一観が火災にあう(6月)	『日本文徳天皇實錄』
879年	菊池郡城院の兵隊の戸がひとりでに増った	『日本三代實錄』
875年(参考)	カラスの群れが菊池郡倉倉の倉庫をかみ抜く	『日本三代實錄』

7世紀末までは「鞠智城」と表記されていたのが、9世紀以降は「菊池城院」、「菊池郡城院」と表記されるようになりました。